

2022年6月

【東北大学生活環境実態調査】
多様な性(性自認・性的指向)を
とりまく現状に関する調査
結果報告
—最終版—

調査主体 / 報告書執筆者：
東北大学 性を考えるサークルAROW
内部組織「AROW Project」

0. 目次

0. 目次	1
1. 本報告書で用いる用語の用法	2
2. アンケート/インタビュー調査について	4
2-a. 調査の目的・概要	4
2-b. 調査主体	4
2-c. 調査の対象・期間・方法	4
2-d. 調査結果の回収状況	4
2-e. アンケートの構成	5
3. 調査結果	6
3-a. 回答者のジェンダー・セクシュアリティ	6
3-a-a. アンケートから見るジェンダー・セクシュアリティ	6
3-a-b. インタビューから見る性的マイノリティのカミングアウト	10
3-b. 性別による区分に伴う困難	10
3-b-a. 性別による区分に伴う困難の現状	10
3-b-b. 性別による区分に伴う困難の影響 / 対応 / 支援	14
3-c. 性自認・性的指向に関する考察	15
3-c-a. 性自認・性的指向に関する考察	15
3-c-b. 性自認・性的指向に関する不快な言動の影響 / 対応 / 支援	18
3-d. 東北大学への評価・要望	20
3-d-a. 大学の関連機関への評価	20
3-d-b. 大学に対する要望	22
3-d-c. インタビュー回答者が東北大学に対して伝えたいこと	25
4. 考察	26
4-a. 回答者のジェンダー・セクシュアリティに関する考察	26
4-b. 性別による区分に伴う困難に関する考察	26
4-c. 性自認・性的指向に関する考察	27
4-d. 困難や不快な言動を経験した際に望まれた支援と現状	28
4-d-a. 性別による区分に伴う困難に際して望まれた支援と現状	28
大学の発行する書類に関する改善と現状	28
性別による区分に伴う困難に際して望まれた支援	29
4-d-b. 性自認・性的指向に関する考察	30
4-e. 東北大学への評価・要望に関する考察	31
4-f. 考察のまとめ	33
5. 提言	34
6. 総括	36
謝辞	37
参考文献	38
付録	39

1. 本報告書で用いる用語の用法

ジェンダー・セクシュアリティに関する議論は現在進行形で多くの立場からなされており、そこで使用される用語が文脈や時代によって異なる意味を持つことが多い。また、セクシュアリティを表す用語について、当事者の意図している用法と報告者の解釈が一致していない場合もありうる。そのため、本項は単語の定義を解説するものではなく、あくまで本報告書内の考察や自由記述の解釈等での用法・認識を整理したものとして捉えて頂きたい。

- 性自認 / ジェンダー・アイデンティティ: その人が自分自身の性別をどう思っているかに関する、ある程度持続的な自己意識(アイデンティティ)のこと。
 - 中性:「男女のどちらもある」、「どちらでもない」、「間である」などのジェンダー・アイデンティティ。
 - 無性:「男性・女性どちらの要素も持たない」などのジェンダー・アイデンティティ。
 - ノンバイナリー:「男女二元論の枠組みの外に存在する」、「男性でも女性でもない」などのジェンダー・アイデンティティ。
- 性別違和:出生時に割り当てられた性別に違和感を持つこと。
- 性自認×出生時性別:性自認と出生時に割り当てられた性別の組み合わせに関する分類。
 - シスジェンダー:生まれた時に決められた性別または生物学的性と、ジェンダー・アイデンティティ(性自認)が一致している人。
例)シスジェンダー男性、シスジェンダー女性
 - トランスジェンダー:ジェンダー・アイデンティティ(性自認)が出生時に決められた性別やジェンダーと一致しない人を指す総称。
例)トランスジェンダー女性、トランスジェンダー男性
- 性的指向 / セクシュアル・オリエンテーション:どんな相手に恋愛的、性的魅力を感じるか、または感じないかということ。
* 本調査では理解のしやすさを優先し、性的指向という用語で恋愛的指向も含むとしている。
 - レズビアン:女性に魅力を感じる女性のこと。
 - ゲイ:男性に魅力を感じる男性のこと。レズビアンを含む同性に魅力を感じる人を指す場合や、ヘテロセクシュアルではないあらゆる性的指向の総称として使われることもあるが、本調査では狭義の用法で使用している。
 - バイセクシュアル:2つの(または2つ以上の)ジェンダーに性的魅力を感じること。
 - パンセクシュアル:あらゆるジェンダーに性的魅力を感じること。
 - アセクシュアル:他者に対し、性的魅力をほとんど・まったく感じないこと。また、そのようなアイデンティティを持つ人の総称としても用いられる。
 - アロマンティック:他者に対し、恋愛的的魅力をほとんど・まったく感じないこと。
- セクシュアリティ:ジェンダー・アイデンティティ(性自認)やセクシュアル・オリエンテーション(性的指向)のみでなく、個人の性にまつわる状態を包括的に指す単語。
- アライ:LGBT+などの性的マイノリティではないが、そのコミュニティを積極的に支援する人。
- オープン:自身のセクシュアリティを、周囲や社会に対して隠していない状態。
- クローゼット:自身のセクシュアリティを、周囲や社会に対して隠している状態。
- カミングアウト:自身のセクシュアリティを周囲や社会に打ち明けること。
- アウティング:他人が本人の同意なくセクシュアリティを暴露する行為のこと。
- 異性愛主義(ヘテロセクシズム):男女間のセクシュアリティだけを正しいものとして認め、そこから外れるものは価値が低いとみなす考え方。

- ジェンダーステレオタイプ：「女らしさ」や「男らしさ」など、ジェンダーに関するステレオタイプ。

2. アンケート/インタビュー調査について

2-a. 調査の目的・概要

今回の調査の目的は「東北大学の現状を把握し、東北大学を変える。」である。背景にあるのは東北大学でのジェンダー・セクシュアリティに関するサポートや理解が不足しているのではないかというAROW発足当初からの問題意識であり、全ての学生が安心して大学生活を送るために必要な環境の整備や仕組みづくりを求める際の基礎資料を作成することを目指している。

目的達成のため、「東北大学生の生活環境実態調査」の第1弾として「多様な性(性自認・性的指向)を取りまく現状に関するアンケート」を行なった。

また、アンケート回答者の一部の方に対しては、アンケートの内容をより詳細に確認するインタビューを実施した。

2-b. 調査主体

東北大学 性を考えるサークルAROWの内部組織、AROW Projectが主体で行う。

2-c. 調査の対象・期間・方法

アンケート調査

【対象】: 東北大学の学生(大学院生、研究生を含む)を対象に調査を行なった。アンケートの内容は全て日本語で作成している。

【期間】: 2021年8月14日～9月10日

【方法】: Google Form を用いてアンケート調査を行なった。

AROW公式Twitter、Instagram、ホームページおよびメンバーを通しての学年 / 学部 / 学科LINE、東北大学男女共同参画推進センターホームページにてアンケートの周知をした。

インタビュー調査

【対象】: 本アンケート内で任意で連絡先を記入した回答者のうち、追加インタビューの依頼に応じた方。

【期間】: 2021年9月26日～2021年12月31日

【方法】: アンケートに記入されたメールアドレス・SNSアカウント等へ連絡をし、対面・zoom・文面上のいずれかの方法でインタビューを行った。

2-d. 調査結果の回収状況

アンケート調査

回収数: 152件

有効回答: 151件

無効回答: 1件

インタビュー調査

依頼数: 19件

インタビュー実施数: 6件

2-e. アンケートの構成

本アンケートは6つのセクションから構成される。

1. 調査概要
2. 倫理的配慮
3. 大学における性別による区分に関するアンケート
4. 性自認・性的指向に関連した不快な言動に関するアンケート
5. その他の性自認・性的指向に関するアンケート
6. 任意での連絡先記入のお願い

3. 調査結果

本報告書は実態を明らかにすることが目的なため、差別的な内容やショッキングな体験等について、本調査で得られた記述回答の原文を記載している。報告書中の表現等に関して体調や気分がすぐれなくなつた場合のため、以下に相談機関を示す。

<学外機関>

- ・よりそいホットライン(電話:0120-279-226)
- ・仙台いのちの電話(電話:022-718-4343)
- ・NPO法人ハーティ仙台(メール:<https://www.hearty-sendai.com/hearty-mail-sodan>)
- ・ウィメンズカウンセリングいずみ(電話・FAX:022-727-5455)

<学内機関>

- ・東北大学 学生相談・特別支援センター 学生相談所(電話:022-795-7833 メール:gakuso@ihe.tohoku.ac.jp)

3-a. 回答者のジェンダー・セクシュアリティ

3-a-a. アンケートから見るジェンダー・セクシュアリティ

アンケート内セクション5の設問、[5-4.あなたが自認する性別をお答えください。]、[5-5.あなたの出生時に割り当てられた性別をお答えください。]、[5-6.あなたの性的指向(どんな相手に恋愛的、性的な魅力を感じるか)をお答えください。]への回答に基づいて、性自認、性自認×出生時性別、性的指向、性的指向・性自認を分類しまとめた結果を、表3-a-1,2、図3-a-1~4に示す。以降の分析ではこれらの分類に基づき、シスジェンダーかつヘテロセクシュアルの回答者93名を「性的マジョリティ」、それ以外に分類される回答者と無回答等の回答者を合わせた58名を「性的マイノリティ・その他」とした。

今回の調査では、性自認と出生時に割り当てられた性別が一致しているシスジェンダーは151名のうち130名。次いで多かったのは「中性・無性・ノンバイナリー」の7名であった。性自認の回答のその他は、「わからない」や「クィア」、「オス」などである。

ただしここで性自認女性との回答が68件、シスジェンダー女性という回答が69件であるのは、性自認を問う自由記述の解答欄では「シスジェンダー」と記述しており、出生時性別が女性であると回答した方がいるため、男性自認の回答者が62名、シスジェンダー、トランスジェンダー男性の合計が61名であるのは、男性自認で出生時性別が無回答の回答者がいたためである。

図3-a-3では性的指向のみ、図3-a-4では、性的指向に加えて性自認のデータも合わせて表記している。今回の回答151件の内、ヘテロセクシュアル(異性愛者)の回答者は93名であり、次いで「バイ / パンセクシュアル」の回答者が15名、「アセクシュアル・アロマンティック」の回答者が13名、「分からない」が11名と続く。「その他」では、以下のような回答の他に、性自認が「中性」や「無回答」等であるため都合上分類できなかつた回答者が半数近く含まれる。

5-6.あなたの性的指向(どんな相手に恋愛的、性的な魅力を感じるか)をお答えください。【任意回答】

その他として記述された回答

- 恋愛的魅力は男性だが、性的魅力はどちらの性にも感じない。
- 恋愛対象は男性だがゲーム等の女性キャラに性的魅力を感じることはある
- 男性みたいな女性で女性に恋する女性
- パンロマンティック、ウーマセクシュアル
- 性別に関係なし(パンセクシュアル)

表3-a-1 回答者の性自認・出生時性別

性自認分類 (5-4.)	人数 (名)	性自認×出生時性別 (5-4., 5-5.)	人数 (名)
女性	68	シスジェンダー女性	69
		トランスジェンダー女性	0
男性	62	シスジェンダー男性	61
		トランスジェンダー男性	0
中性	3	中性・無性・ノンバイナリー出生時女性	5
無性	2	中性・無性・ノンバイナリー出生時男性	2
ノンバイナリー	2		
無回答	8	性自認無回答・出生時女性	1
		性自認無回答・出生時男性	2
		性自認無回答・出生時性別答えたくない	2
		完全無回答	3
その他	6	その他	6
合計	151	合計	151

表3-a-2 回答者の性的指向・性自認

性的指向 (5-4., 5-6.)	人数 (名)	性的指向・性自認 (5-4., 5-6.)	人数 (名)
ヘテロセクシュアル	93	ヘテロセクシュアル女性	43
		ヘテロセクシュアル男性	50
レズビアン・ゲイ	5	レズビアン	1
		ゲイ	4
バイ / パンセクシュアル	15	バイ / パンセクシュアル女性	7
		バイ / パンセクシュアル男性	6
		バイ / パンセクシュアルその他	2
アセクシュアル・アロマンティック	13	アセクシュアル・アロマンティック女性	7
		アセクシュアル・アロマンティック男性	1
		アセクシュアル・アロマンティックその他	5
分からぬ	11	分からぬ (女性)	10
		分からぬ (男性)	1
完全無回答	2	完全無回答	2
その他	12	その他	12
合計	151		151

5-4.あなたが自認する性別をお答えください。

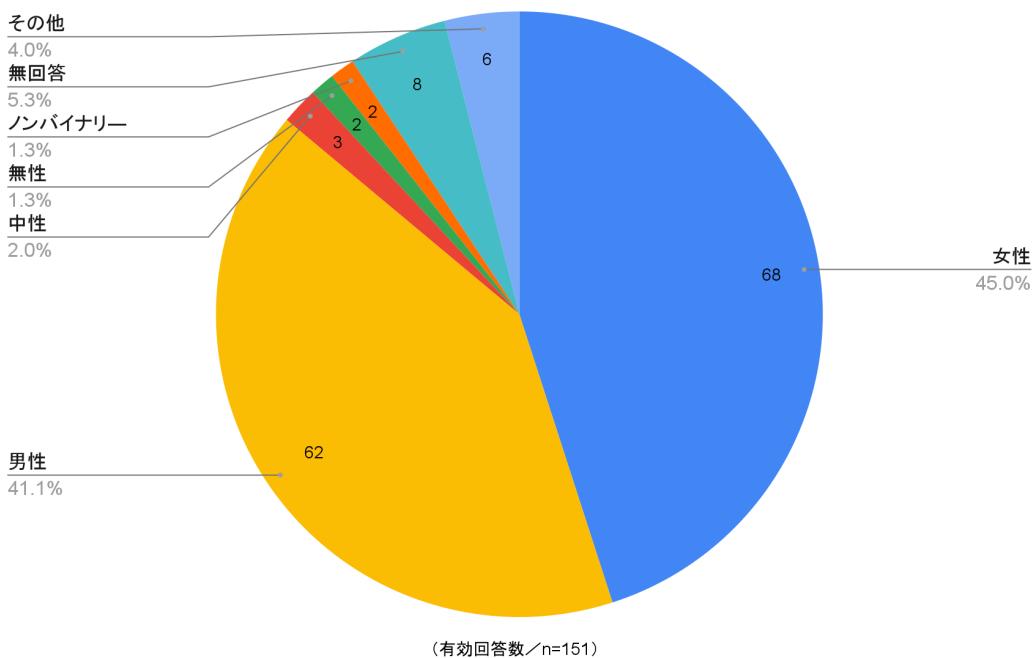


図3-a-1 回答者の性自認

性自認×出生時性別(5-4., 5-5.)

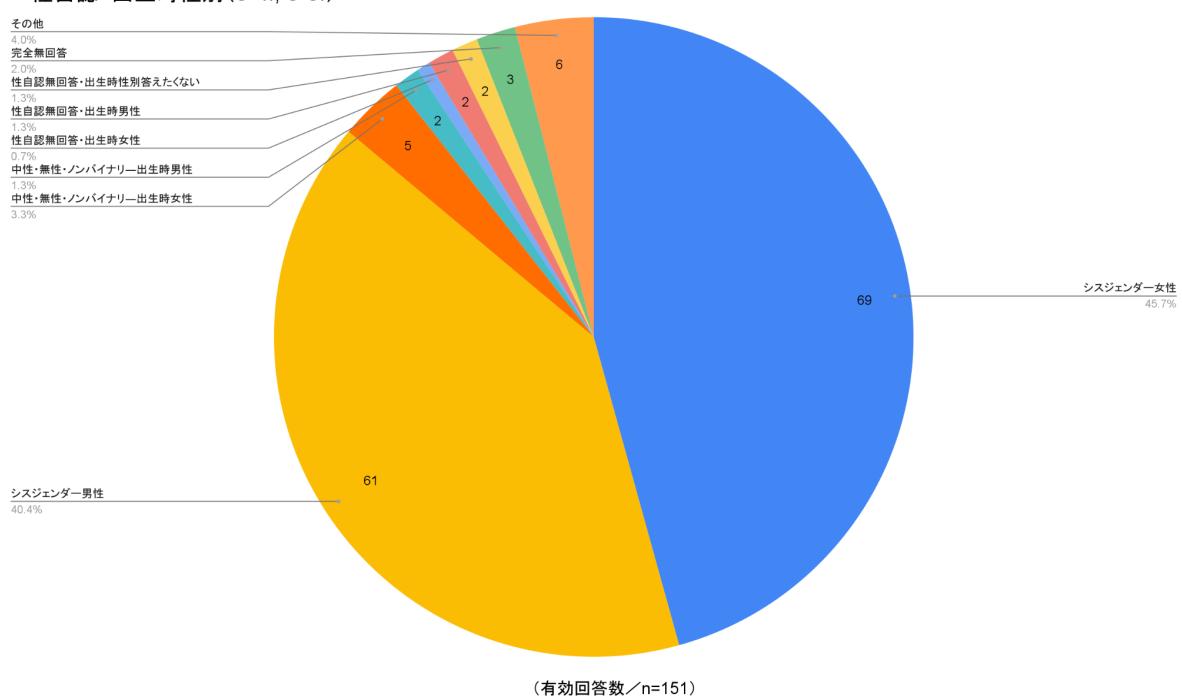


図3-a-2 性自認と出生時に割り当てられた性別に基づいた分類

性的指向(5-4., 5-6.)

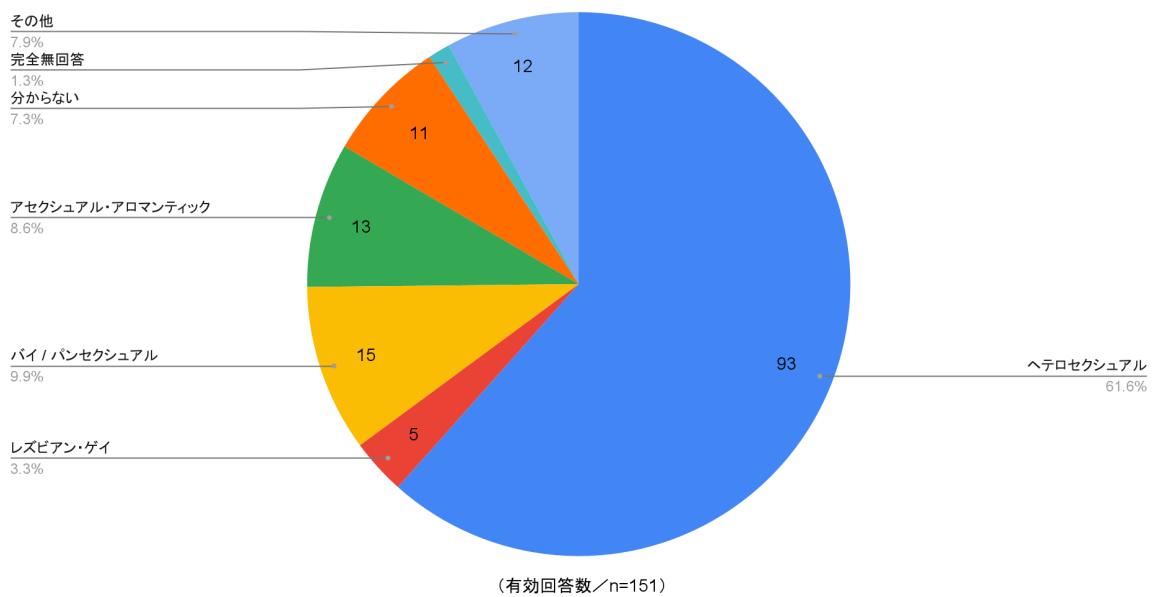


図3-a-3 性的指向

性的指向・性自認(5-4., 5-6.)

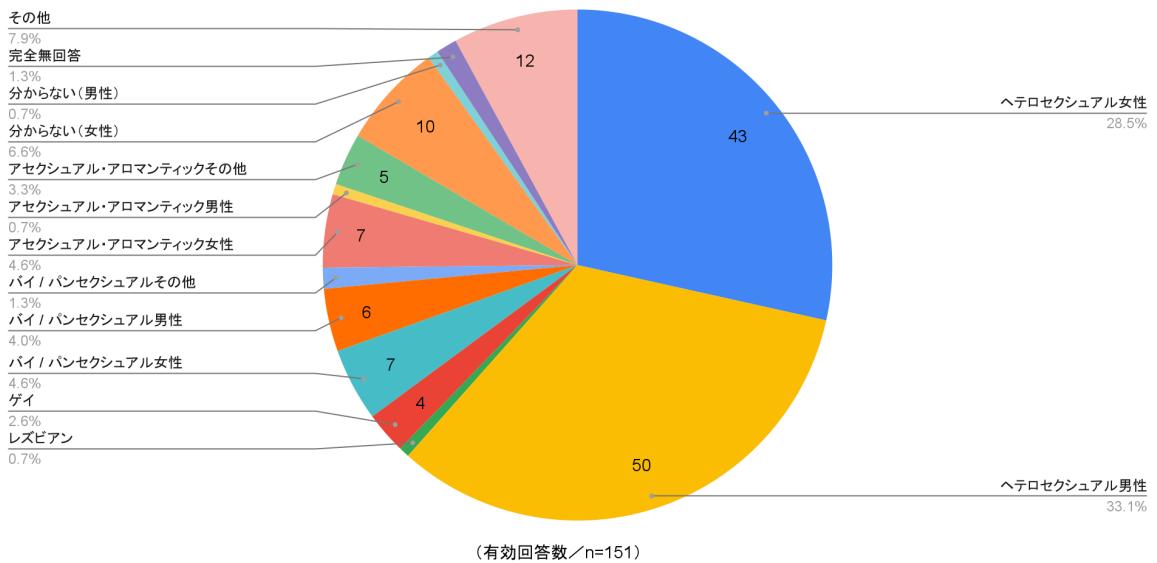


図3-a-4 性的指向・性自認

3-a-b. インタビューから見る性的マイノリティのカミングアウト

インタビューに回答して下さった方のうち、セクシュアリティのマイノリティ性について回答してくれた方5名には、大学生活においてセクシュアリティをオープンしているか否か、その理由やそのために困ったことなどを聞いた。以下に回答を示す。(【】の分類はAROW Projectメンバーによる。)

【オープンしている】

- 1人目
 - 【理由】自分の身近にいる人たちに、同性愛の人が身近にいることを知って欲しくて、っていうのと、自分が自分らしくいたいから話すっていう感じです。
- 2人目
 - 【状態】基本的にオープンでいますね。聞かれたら答えるくらい。
 - 【状態】周りにジェンダーとかの話に対して否定的な人があんまりいない。

【部分的にオープンしている】

- 3人目
 - 【状態・理由】割と親しい友達には数人は言ってて、その範囲以上に広げても、信用してないわけじゃないけどどうせ広まっちゃうし。
 - 【理由】医者の世界狭いので将来狭まつたらやだなあみたいな。(産婦人科など)少なくとも私の周囲には、名前(パンセクシュアル、デミロマ、クエスチョニング)を知らないのが結構多くて、オープンでか言うのに説明するっていう労力がかかるので、それでも言いたい人にしか言いたくないっていうか。
 - 【困っていること】部活の先輩が恋愛話好きすぎて笑ってるくらい。興味ないのを貫き通せばいいだけの話なんですけど。
- 4人目
 - 【状態】部分的には言っている人もいますが、基本的には公にはしていないです。
 - 【理由】今後研究を、研究職になっていくかなっていう風な将来を描いている中で、研究職って結構人の輪が狭いというか、コミュニティが狭いところもあるので、そこの中では弾きになりたくないな。
- 5人目
 - 【状態】積極的にカミングアウトはしたことがないんですけども、仲いい子とかには、(自分は)女の子かも知れないけれどもあんまり女子とは思えないからという話しあげます。

3-b. 性別による区分に伴う困難

3-b-a. 性別による区分に伴う困難の現状

大学生活における性別による区分に関して、結果を図3-b-1~7に示す。

性別による区分に伴う困難を経験したと回答した学生は11名、うち性的マイノリティ・その他の学生は7名、シスジェンダー女性・その他出生時女性の学生は10名であった。

困難を感じた場面としては、「部活動・サークル活動」を7名、「授業等での呼称」を4名、「交友関係」を3名、「健康診断」を2名が選択した。自分の性自認に対応した学内施設を利用できず困難を感じたことがあると回答したのは性的マイノリティ・その他の3名。いずれもトイレを選択している。

大学の発行する書類に関しては、「記載する性別を変更してほしい」を5名、「性別欄をなくしてほしい、または選択肢を増やしてほしい」を30名、「通称名の使用を認めてほしい」を8名が選択した。いずれの選択肢でも、性的マジョリティの回答者が一定数選択している。

3-1.あなたは、大学生活の中で、性別による区分に伴う困難を感じたことがありますか。

(有効回答数／n=151)

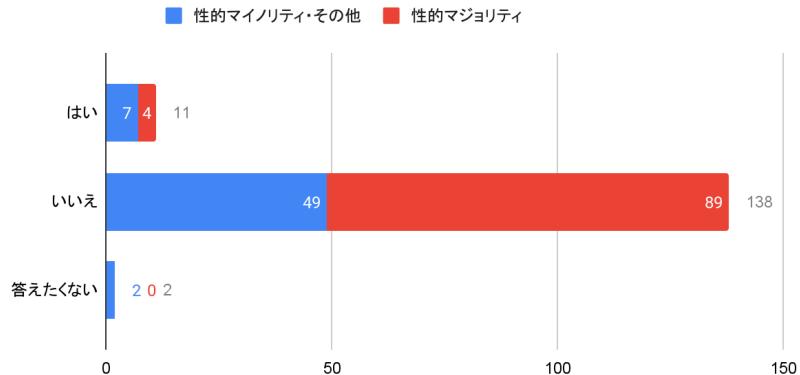


図3-b-1 セクシュアリティと性別による区分に伴う困難

ジェンダーと性別の区分に伴う困難(3-1.)

(有効回答数／n=151)



図3-b-2 ジェンダーと性別による区分に伴う困難

3-2.あなたが大学生活の中で、“性別による区分に伴って困難を感じた”ことのあるものがあれば全て選択してください。【複数回答】

(有効回答数／n=13)

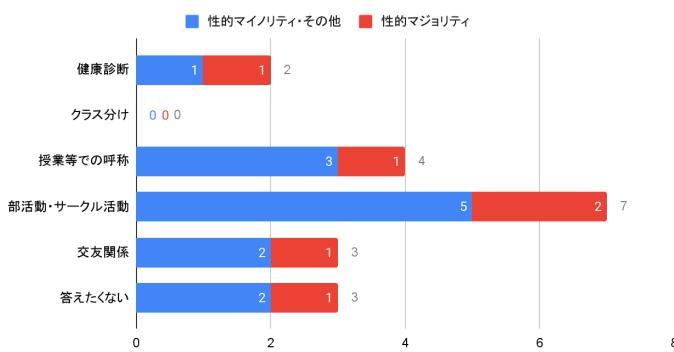


図3-b-3 セクシュアリティと性別による区分に伴う困難を感じた場面

ジェンダーと性別の区分に伴う困難の場面(3-2.)

(有効回答数／n=13)

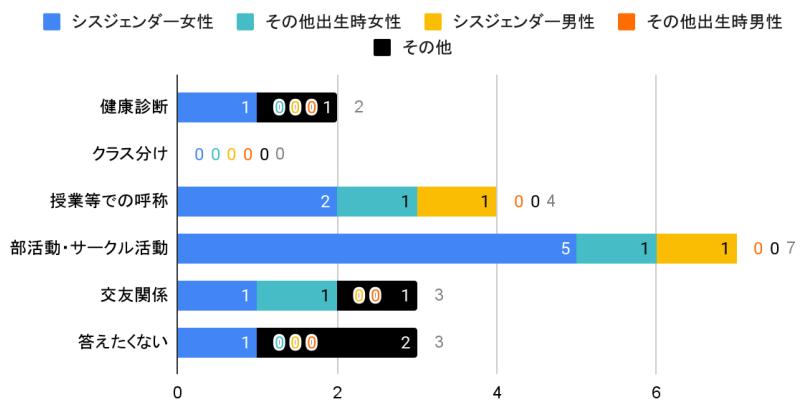


図3-b-4 ジェンダーと性別による区分に伴う困難を感じた場面

3-3.あなたは大学生活の中で、“自分の性自認に対応した学内施設を利用できず困難を感じた”ことがありますか。

(有効回答数／n=151)

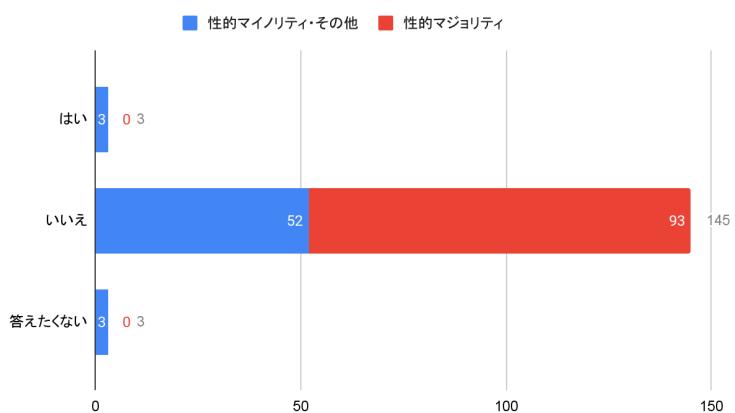


図3-b-5 性自認に対応した学内施設を利用できずに困難を感じた人数

3-4.あなたが大学生活の中で、“自分の性自認に対応した学内施設を利用できず困難を感じた”ことのあるものがあれば全て選択してください。【複数回答】

(有効回答数／n=4)

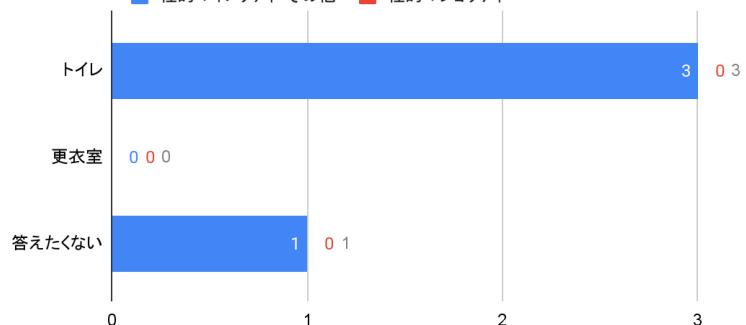


図3-b-6 性自認に対応したものを利用できず困難を感じたことのある学内施設

3-5.大学の発行する書類について、以下のうちから当てはまるものをすべて選択してください。【複数回答】

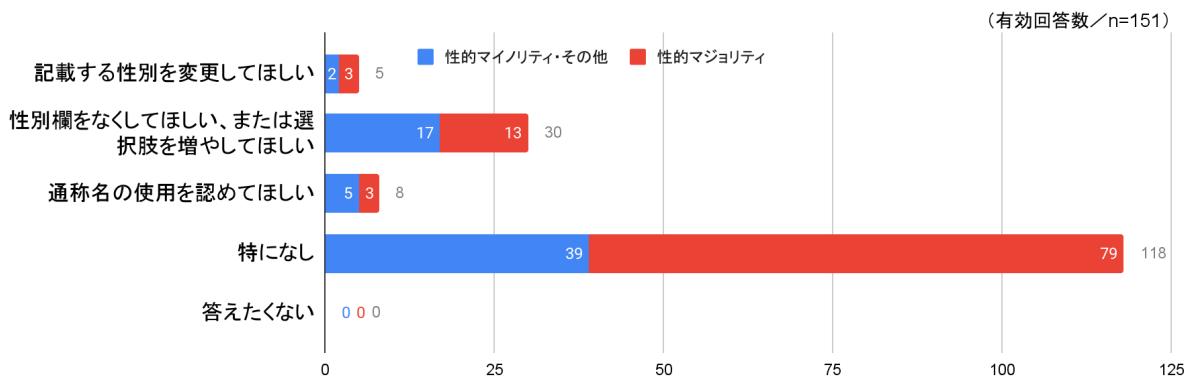


図3-b-7 大学の発行する書類に関する要望

困難を感じた出来事・場面・場所や物に関する記述回答・インタビューの内容は以下の通りである。ただし、個人が特定されない形に文章を書き換えているものもある。(【】の分類はAROW Projectメンバーによる。)

3-10.困難を感じた出来事、場面、場所や物に関して、差し支えがなければ内容を教えてください。

【人間関係に関して】

- 女性が少ない学科あまり深い仲になれる同性の友人が見つからなかったため、恋人にDVやモラハラを受けたときに話す相手がいなかった
- 周囲が男性ばかりなため、男性と関わらなければならない環境に関わらず、仲良くしていると恋愛感情を持つ人が複数いる。断った場合その人と関わることや所属する場に行きにくくなる。

【性別欄・通称名に関して】

- 回答欄に男性/女性以外の「その他」があっても、自分の名前を書いている以上、学校の書類でその他に印をつけることを躊躇してしまうので、はがゆさのあるまま戸籍上の性別を記入した。何の書類であったかは記憶が曖昧である。
- 書類の性別欄が嫌いです。
- 名前が変更できず、オンライン授業で名前が表示されるのが嫌だった。別の場所では違う名前で活動しているので、本当の自分ではないかんじがいつもある。
- (インタビュー)一般的にみんなの前では、別の呼び方をして欲しいみたいな人がいて、授業とかサークルとかの公的な場面でそのニックネーム的なものを使っても本人だって分からなかつたり、書類手続きとかするときにその名前を使ったら教務課が判断してくれないだろうってので、授業内やサークル活動で、どう呼べばいいかっていうで悩んだ。
- (インタビュー)友達が基本的に生きづらううなので、大学の書類に限らずいろんな書類からなくなればいいなと個人的に思っている。
- (インタビュー)授業料免除の申請の書類が基本的に性別欄って男と女しかないんでせめてその他だけでも付け加えてくれたら。
- (インタビュー)基本的に関係ないことならば性別欄はあってもなくても意味が無いかなって思うのでだったら無くしてくれればいいのになとは思います。

【周囲の差別的な対応に関して】

- 自分の性的指向に対して(無理解ゆえの悪気のない)傷つく言葉や態度を受けた
- 性的指向や性別違和について、おそらく無意識の差別から蔑視する発言があった

【その他】

- トランス女性だったのかなと思う学生がいました。学部の名簿の性別は男性でしたが、私は語学の授業が一緒に、何度もしゃべったことがあり、女性トイレで会ったことがあります。その場では何もしゃべらずでした。その後、しばらくして学校に来なくなってしまいました。今は多分やめてしまったのだと思います。傷つけてしまったかもしれない、もっと良い対応ができるのかもしれない感じています。申し訳ないです。

3-b-b. 性別による区分に伴う困難の影響 / 対応 / 支援

性別による区分に伴う困難の影響やその対応、支援についてのアンケート結果を図3-b-8, 9に示す。

困難の影響があったとした回答のうち、最も多かったのは自己肯定感の低下である。その他、心身の健康への被害、授業・課外活動等学校生活の支障があったという回答や、アウティングがあったという回答も存在する。

性別による区分に伴う困難への対応としては、「特に何もしなかった」が最も多かった。特に、困難の影響があったと回答した15名の回答者のうち、9名(60%)は「特に何もしなかった」を選択している。

何かしらの対応をした方はその内容について、「特に何もしなかった」方はその理由について、以下のような自由記述の解答があった。(【】の分類はAROW Projectメンバーによる。)

3-8.(3-7.で「3.特に何もしなかった」「4.答えたくない」以外を選択した方にお聞きします。)誰に相談し、どのような助言・支援を受けましたか。または誰から、どのような支援や対応を受けましたか。

- 家族

3-9.(3-7.で「3.特に何もしなかった」を選択した方にお聞きします。)何もしなかった／できなかった理由を教えてください。
【諦め・我慢】

- 授業を取ることを諦めた
- 行動を起こすほどでもなく、自分が少し我慢すればいいと感じたから。
- これまでの経験から何かしてどうにかなるとは思わなかった
- まだカミングアウトしていないので。

【自分のなかで処理できそうだったため】

- 自分でなんとかできると思った。
- 自分の怠慢です。
- 相談するほどのことではないと思った

【その他】

- 人に相談できないくらい他人を信じられなくなった
- 性別回答欄で問われているのは戸籍上の性別であるからしょうがないと考えることにした。でも、性別の記入を求める意義が分からぬものも多いので納得しきれていない。
- どう動けばいいかわからなかったから。

これらの性別による区分に伴う困難に際して望まれた支援について、以下のような自由記述欄の回答があった。

3-11.どのような支援があればよかったです。

- 痴漢などの被害を受けた際にどう対応すればいいかのマニュアル化(特に高校生など向けの)
- 通称名の使用ができる。
- 性別記入欄は可能な限り無くしてほしい。
- 性的少数者の存在を認知、理解してくれる人の存在
- 大学内での性別違和や性的指向を理由とした差別を禁止することを公に取り決めてほしい

3-6.性別による区分に伴って困難を感じた出来事があった後、あなたにどのような影響がありましたか。【複数回答】

■ 性的マイノリティ・その他 ■ 性的マジョリティ

(有効回答数／n=49)

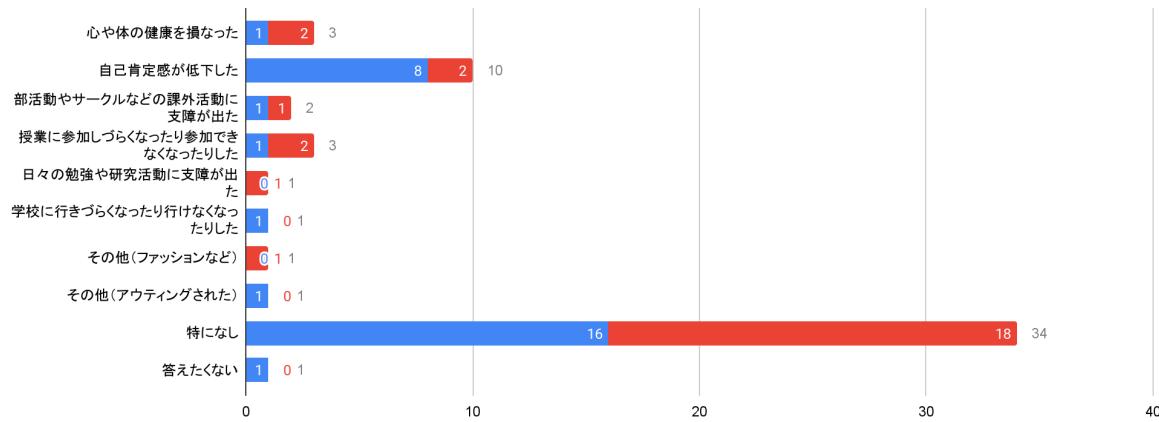


図3-b-8 性別による区分に伴う困難の影響

3-7.あなたは、その出来事に対してどのように対応しましたか。

【複数回答】

■ 性的マイノリティ・その他 ■ 性的マジョリティ

(有効回答数／n=27)



図3-b-9 性別による区分に伴う困難への対応

3-c.性自認・性的指向に関連した不快な言動

3-c-a. 性自認・性的指向に関連した不快な言動の現状

性自認・性的指向に関して発せられた不快な言動について、結果を図3-c-1~3に示す。

性自認や性的指向に関して周囲の人の言動によって不快な思いをしたと回答した学生は合計で35名。その7割以上は性的マイノリティ・その他であった。

その発言をした人物としては東北大学生が突出して多い。2番目に多かったのは大学教員であり6名が選択した。

その言動が行われた場面としては、性的マイノリティ・その他の回答者では「部活動やサークル活動の中で」が、性的マジョリティの回答者ではSNS上が最も多く選択された。

4-1.あなたは大学入学後に性自認や性的指向に関して、周囲の人の言動によって不快な思いをした経験がありますか。【複数回答】

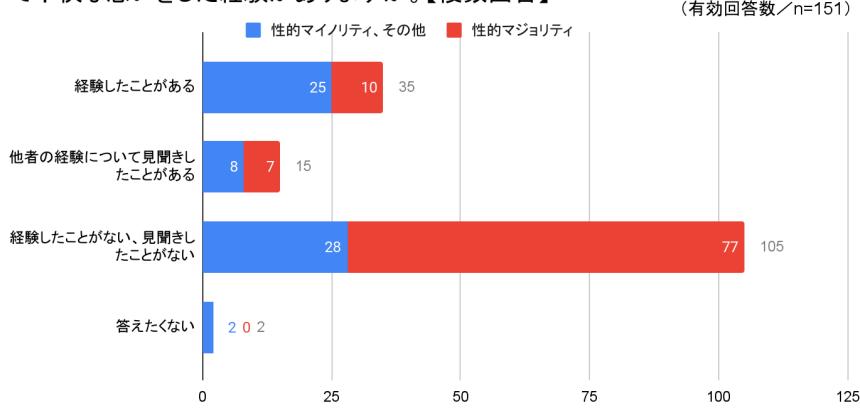


図3-c-1 大学入学後に性自認や性的指向に関して、周囲の人の言動によって不快な思いをした経験がある人の数

4-2.性自認や性的指向に関して不快な言動を行った人は誰ですか/でしたか。【複数回答】

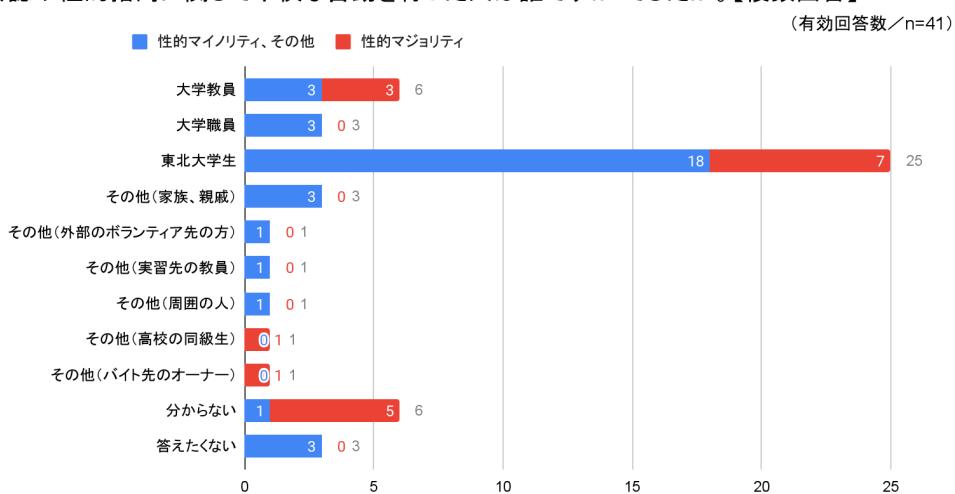


図3-c-2 性自認や性的指向に関して不快な言動を行った人物

4-3.その言動はどこで行われましたか。【複数回答】

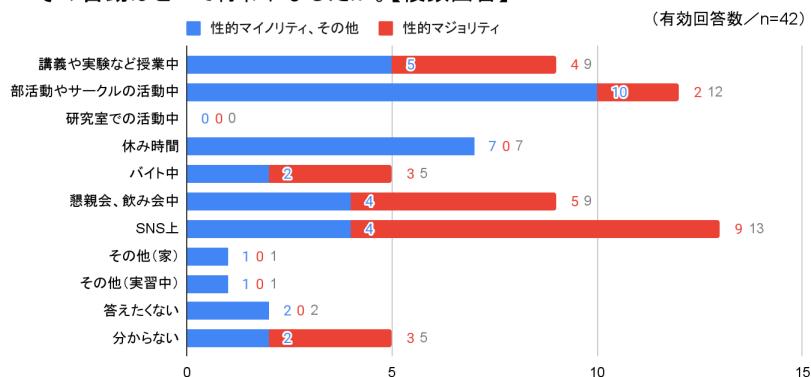


図3-c-3 性自認や性的指向に関して不快な言動が行われた場面

記述回答による出来事の内容は以下の通りである。ただし、個人が特定されない形に文章を書き換えているものもある。(【】の分類はAROW Projectメンバーによる。)

4-8. 差し支えがなければ、その出来事に関して内容を教えてください。

【異性愛主義に基づく言動】

- ごく普通の男女間の恋愛の話。恋バナ（「好きな子もいないの？」など）とか性的な話に関しても、全然ついていけない。あんまり話して欲しくない。（聞いてても、あんまり面白くないし。）
- 願いごとを書くときに、わたしを含めていた数人の女子大生に「みんな彼氏ほしい？ ほしいでしょ！」というふうに言われました。
- 恋人がいたことがない、と言うとしつこくタイプを聞かれ、憐れまれ、いじられた。自分は恋愛ができない人間なので、不愉快だった。
- よく「彼女いる？」と聞かれるが、彼女とは限らないのになあと思うことはある。
- 女性は男性が好きであるという前提で質問されたこと。
- 恋をするのは当たり前。
- （インタビュー）「あっちに座っている男子の中で誰が好み？」って聞かれて、普通に分からないうちで答えたんですけど、「そんなことないでしょ？」って言われて、いやそんなことあるんだよなあって思って、そこで「そんなことないでしょ？」って言ってくれなくていいのになあって思いました。
- （インタビュー）恋愛感情分からぬし恋愛感情ないからっていうと、必ず変な顔をされそなことないでしょって必ず返ってくるんですけど、そなことあるんだよってみんな知って欲しいなって思ってます。

【ジェンダーステレオタイプに基づく言動】

- 男なのにそなことも出来ないのか、などという言動
- 「女子は～だよね」と男子学生に言われた（私の性自認は女性です。）
- 服装について言及するような話題になった 向こうは否定的な感じではなかったがデリカシーがない表現であつたと感じる
- XXは男子/女子だから～と言われた

【差別的言動】

- 友達が性についてあまり適切でない発言をした。
- SNS上で、性的少数者を揶揄するような投稿を見かけた
- 性的少数者の話題で「LGBTの人、近くにいる？ いないよね」と身近にいないことを前提に質問されたこと。その人は性的少数者の存在を懐疑的に捉えているようだった。私には同性愛者だと明言している友人がいるし、性自認において自分も含まれうると考えているため、上記のような質問は不快だった。
- 部活動で、ある部員について、ひとりが「おかま？」などとからかっていて笑いが生じていました。
- 友人を含めた一部の学生間で、同性愛者を揶揄し冗談を言うのが当たり前になっていた。ネットでジョークの一種として主流なのもあり、誰も問題意識を持たずに話していた。聞こえると不快だったし、一度話に巻き込まれて、受け流さなければと思い大変困った。
- 友人がジェンダーを差別する発言をした
- 性の多様性を考えるのはめんどくさい。〈と言われた。〉
(括弧内は報告書作成者が補足。)
- 性的マイノリティの人を受け入れられない、気持ち悪いといった発言
- （インタビュー）教員の先生で、他の教員の先生に対して、彼はゲイだと思うから、劣ってるみたいな話をされたことがあった。それがなんか嫌だな、と思った。
- （インタビュー）新入生歓迎会の時になんとなくホモいじりネタがさらっと流れる

【授業内での問題】

- 授業でLGBTについて扱ったときに、具体的なことは忘れてしましましたが、否定的なことを言う人がいた気がします。（ちゃんと記録しておくべきでした。）
- 知人（女性）が授業で、クラスで女子が1人だけであることを教員に繰り返し言及され、不快な思いをした
- LGBTに関する授業であからさまに理解のない方が講師としてきて、裏で相談に乗ってはいるが男二人でいらっしゃいやしているのを見たら正直気持ち悪いと言っていた。
- 講師の方が「オカマ」という言葉を使っていました。私の認識では差別用語なのですが....
- 授業内の教授と学生のやりとりで、教授側から恋のABCという話題を振られた。アメリカではよくある話題だからとのことだったが、さすがにやめてほしいと思った。

【その他】

- ネタである可能性が高いと判断したのもあってあまり覚えていない。
- ある出来事について母に相談していた際、やはり自分はアセクシャルだと思うと言った所、そんな人はいるはずがない、何かの病気なら診断してもらって治した方が良い、というような趣旨の発言をされた。素敵な恋愛をして幸せになって欲しいという気持ちや、孫の顔が見られないかもしれないという失望感は理解出来るため、恋愛が出来ない自分が情けなくなつた。
- （インタビュー）コロナ前特に、懇親会や飲み会のときとか、マジョリティであることが前提で話をされたりっていう

のはごく当たり前に行われているかな、という風に思います。そういうところで、不快ですよね。

3-c-b. 性自認・性的指向に関連した不快な言動の影響 / 対応 / 支援

性自認・性的指向に関する不快な言動の影響やその対応、支援についてのアンケート結果を図3-c-4,5に示す。

性自認・性的指向に関する不快な言動の影響があったとした回答のうち、最も多かったのは自己肯定感の低下であり11名が選択、次いで4名が心や体の健康を損なったを選択している。その他としては、以下のような回答があった。

4-4. その経験の後、あなた自身にどのような影響がありましたか。【複数回答】【任意回答】

その他として記述された回答

- 不快に思ったが、その先輩に特に悪気もないことは明らかだったので、気にしなかった。
- 無知な人に呆れた
- 東北大生でもこういう人がいるのか、と驚いただけ。

不快な言動への対応としては、「特に何もしなかった」が最も多く、「相談した」、「第三者の支援や対応があった」がそれぞれ1名ずつであった。自身が不快な思いをした、あるいは他者の経験について見聞きした回答者42名のうち35名(83.3%)、自分自身が不快な思いをしたと回答した35名のうち29名(82.9%)は対応として「特に何もしなかった」を選択している。特に、不快な言動による影響があったと回答した回答者13名のうち、11名(84.6%)も「特に何もしなかった」を選択している。

何かしらの対応をした方はその内容について、「特に何もしなかった」方にはその理由について、以下のような自由記述の解答があった。(【】の分類はAROW Projectメンバーによる。)ただし、誤字であると思われる記述は修正を加えている。

4-6.(4-5.で「3.特に何もしなかった」「4.答えたたくない」以外を選択した方にお聞きします。)誰に相談し、どのような助言・支援を受けましたか。または誰から、どのような支援や対応を受けましたか。

- 教務課に報告した。学期末の無記名で行われたアンケートに書き込んだので、特に対応はない。

4-7.(4-5.で「3.特に何もしなかった」を選択した方にお聞きします。)何もできなかつた／しなかつた理由を教えてください。【周囲からのネガティブな反応を避けるため】

- 周囲から浮いてしまうから。
- 当たり前の話題の一つとなっていて、その問題点に踏み込むのは過激な活動家だという雰囲気があるから。
- 口答えすると逆ギレされるから

【自分のなかで処理できそうだったため】

- 気にしないようにした方が楽だったから
- 自分の中ではモヤモヤしたけど、大したことではないと思ったから。
- 不快だとは思ったが別にその後問題になる様なことも無かったから
- 気分を害しただけだから。
- そこまで気にすることでもないと思ったから。
- する必要がなかったから。
- 自分以外の人が不利益を被ったりなど大事ではなかったから
- 自分が受けたセクハラに関しては自分で解決できたから

【諦め・困惑】

- 意外には思ったが、これが世の中というものなのだろうと諦めているから。何かしても改善すると思わなかったから
- SNSで見たので、個別に対応することにはキリがないから。
- 誰に相談すれば良いか分からなかつたし、自分の問題だから相談した所で変わらないとも思った
- どうすればよいのか分からなかつた。

【他者の経験だったため】

- その知り合いの周りの出来事について聞いただけで何かを相談された訳では無いと思ったから。
- 他者の経験に関しては話を聞くことしかできなかつたし、自分にあまり影響がなかつたから
- 友人はすでに対策をとっていたため。

【価値観を押し付けたくなかったため】

- 不快にはなったが、全員に対して性的マイノリティを認めさせることを強制するのは望んでいないし、いろいろな考え方を持って発言できる権利を全員が持っていると思うから
- 人を変えるのは難しい。
- 価値観の押し付けになるから。

【回答者より年上の存在であったため】

- 大人数でしゃべっていて、先輩の発言だったので注意できませんでした。ただ、注意するべきだったと思います。
- 不快な言動をした人が学内のカウンセラーだったため、相談をする他人も思い当たらなかった。
- 講師の方の発言だったので指摘する勇気がなかった。

【カミングアウトしていないため】

- カミングアウトしていないので。
- 自身がクローゼットのため言える人がいなかった。

【その他】

- 性的少数者の自分が周りに合わせなければいけないと思ったから

性自認・性的指向に関する不快な言動に際して、自由記述欄で回答された望まれた支援を以下に記す。（【】の分類はAROW Projectメンバーによる。）

4-9.どのような支援があればよかったです。

【話を聞いてもらえる場】

- 信頼できるカウンセラーや外部の無料もしくは安い相談機関の紹介があるとよかったです。
- ただ話を聞いて受け止めて欲しかった

【居場所】

- 本名を明かさずとも対面で話し合いができるようなコミュニティの形成
- イベント
- 性的少数者が肯定されるような居場所があればいいなと思った

【マイノリティの存在の認知】

- 支援というほどでもないが、そういう人間がいることをもっと知つてもらえたなら楽だろうと思う。
- この発言をしたのは実習先の養護教諭だった。どうしても理解を得られない人はいるようである。具体案は思いつかないが、特定の役割の人に詳しい理解を委ねるのではなく、できるだけ多くの人に知識を広めることが必要だと感じた。

【その他】

- 教授や学生以外の、TAなどの第三者がいれば違ったかもしれないと思った。学生は成績を気にして教授に対して強く出にくいと思う
- 一人一人の意識の問題なので、直接的な支援は難しいと思う
- 支援ではどうにもならないと思う
- 自分自身は異性が好きなので特に問題はなかった

4-4.その経験の後、あなた自身にどのような影響がありましたか。【複数回答】

(有効回答数／n=42)

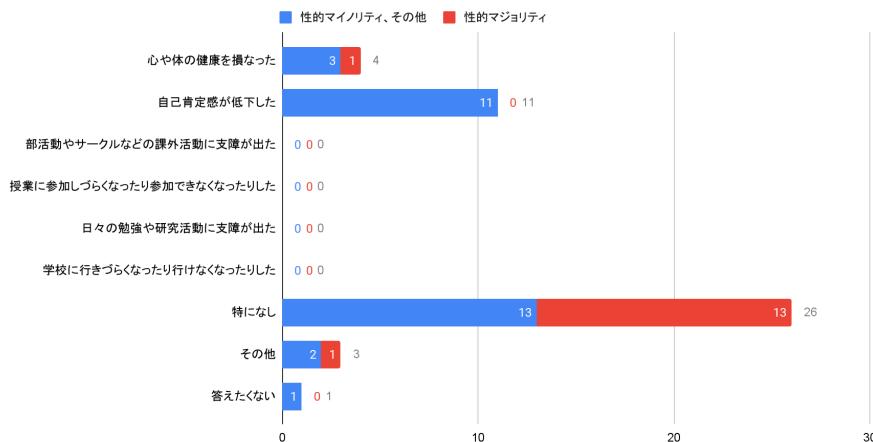


図3-c-4 性自認・性的指向に関する不快な言動の影響

4-5.あなたは、その出来事に対してどのように対応しましたか。【複数回答】

(有効回答数／n=43)

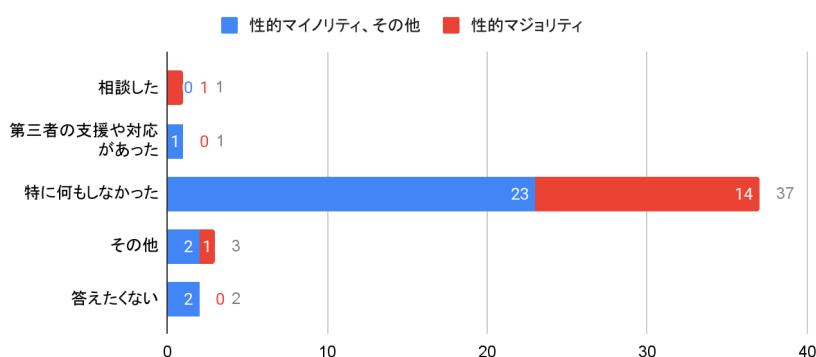


図3-c-5 性自認・性的指向に関する不快な言動への対応

3-d. 東北大学への評価・要望

3-d-a. 大学の関連機関への評価

大学の支援機関の機能に関して、以下図3-d-1に性的マイノリティ・その他からの評価、図3-d-2に性的マジョリティからの評価を表す。

性的マイノリティ・その他の回答者による評価では、大学の関連機関について肯定的な選択をした回答者と、否定的な選択をした回答者、「わからない」を選択した回答者がほぼ同数である。性的マジョリティによる評価では、半数は「わからない」を選択し、残り約半数では肯定的評価を25名が、否定的評価を19名が選択した。

5-1.性的指向や性自認に関する相談、支援について、大学の関連機関が適切に機能していると思いますか。

(性的マイノリティ、その他) (有効回答数／n=58)

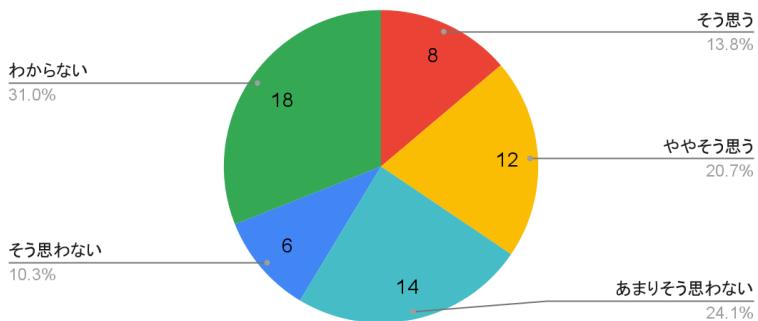


図3-d-1 大学の関連機関への評価(性的マイノリティ・その他)

5-1.性的指向や性自認に関する相談、支援について、大学の関連機関が適切に機能していると思いますか。

(性的マジョリティ) (有効回答数／n=93)

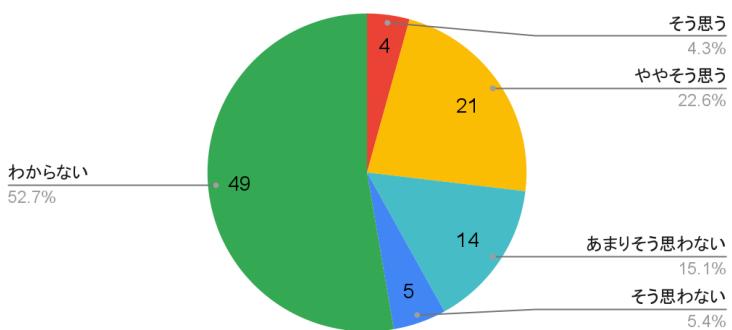


図3-d-2 大学の関連機関への評価(性的マジョリティ)

自由記述欄・インタビューで回答された大学の関連機関へのネガティブな評価の根拠を以下に記す。(【】の分類はAROW Projectメンバーによる。)

5-2. 5-1.で「うるさい」「まあまあうるさい」を選んだ方は、その理由をお答えください。

【大学の関連機関を知らない】

- 機関の役割を知らない。どのような機関が存在しているのか分からぬいため。
- そのような機関の知名度があまり高くないから
- そういう活動をしている機関を聞いたことがない
- そういういった機関をあまり知らないから。
- そのような活動を耳にしない
- 相談窓口の周知や支援の雰囲気をキャンパス内で実感したことがない
- 相談、支援の場がそもそもあるのか分からぬいため(普段の生活で意識して見ている訳では無い為、自分のみかもしれないが...)
- 性的指向に関する相談はどこにしていいのかわからない。
- 大学が特別そういった支援をしているとは思いませんでした(相談なら受け付けてるかもしれないですが)
- 私が気にしていないから目につかないだけかもしれないが、大学側から性的マイノリティーに対してアクションがとられている様子があまりないから。
- 大学でそのような関連機関や相談体制が整備されているの言う話をあまり聞いたことがない
- そういう機関の存在を知らない
- そういうた話を聞く機会がほとんどないから
- ほとんど存在を知らないからです。
- そのようなことに関連する大学からの大学の情報を聞いたことがないから

- 自分の調査不足かもしれないが、どこに相談できるのかがよく分からない。どこが支援してくれているのかもよく分からない。
- 大学の関連機関で相談、支援をしてくれる窓口を知らないため
- こういった内容の相談や支援をしてくれる場所があることを知らないから。
- (インタビュー)特に大学の機関において実際にどのような活動をしているのかがよく分からないため。

【一般的な知名度が低い】

- 大学から学生に向けた情報の発信が少ないと思うから。
- 性的指向や性自認に関する相談、支援が大学の関連機関で受けられると思っている人が少ない印象だから
- 当事者意識がない人へのアプローチが少なく、目立っていない。
- 身近に感じられない

【制度・施設に性の多様性への配慮がない場合がある】

- 性がグレーデーションであることを認める制度が少ないと感じる
- 大学の書類には戸籍上の性別を書き込む必要があったり、男子と女子で区分されている施設が多いと感じるから。
- 呼称に関しては「さん」や「くん」と男女によって分かれていると感じるから。
- 性別を答えさせる欄が多くあるから。

【相談機関の質に問題がある】

- すぐに相談できる窓口がないと思う。学生相談所も手続きに時間がかかり、利用しづらいと感じるから。
- 学内のカウンセリングは講義の関係で全く信用出来ない
- 男女共同参画推進センターはあるけれど、大学の教員職員の男女共同参画であり、学生のセクシュアリティ関連は不十分だと思います。
- 大学内における相談窓口や、関連する機関は存在し、相談などを受け付けているものの、窓口が狭かったり、学術的要素が強いために当事者自身の痛みや悩み、苦しみに寄り添った機関とはあまりなっていないため。

【そもそも支援はなくて良い】

- 大々的に支援されたら、かえって窮屈な生活を強いられると思う。
- 自分が必要としないので興味がないから
- 大学側がわざわざセクシュアリティについての相談窓口を設ける必要はないでなくてよいと思う
- 一人一人考え方方が違うのと同じで性も違うのだからわざわざそこだけ切り取るのも変な話だと思います。

インタビュー調査では、ポジティブな評価をした根拠も尋ねた。以下に回答を示す。

- AROWさんのような「性」を真面目に考える団体が存在したり、「東北大学男女共同参画推進センター」、「ジェンダー平等と多文化共生研究センター」といった大学の機関が存在したりすることから、関連機関が何かしらの働きをしていることが推測されるからです。
- 学内で使える呼び方を自分で変えられるみたいな制度があって、それを取得して、自分で使えたんですよ。(学生証の名前、サークル内での本名としての扱いなど)その制度がちゃんと使えるってのがいいなって思った。

3-d-b. 大学に対する要望

回答者が大学に要望したい項目を図3-d-3に表す。

その他として書き込まれた項目は、以下の2項目である。ただし、誤字であると思われる記述には修正を加えている。

- アライコミュニティはあまり気に入らない
- 東北大学工学部が”女子学生入学者を増加させたい”と色々活動しているが、やめたほうがいいと思う。AOII期などを見てても女子学生の入学者が多いように感じる。入学後も工学部ではOOOエンジェルスと呼ばれるプログラムのようなものがあり、優遇を受けている。

5-3.大学に対し、特に要望したいと思う項目を【最大5つ】選択して下さい。

(有効回答数／n=115)

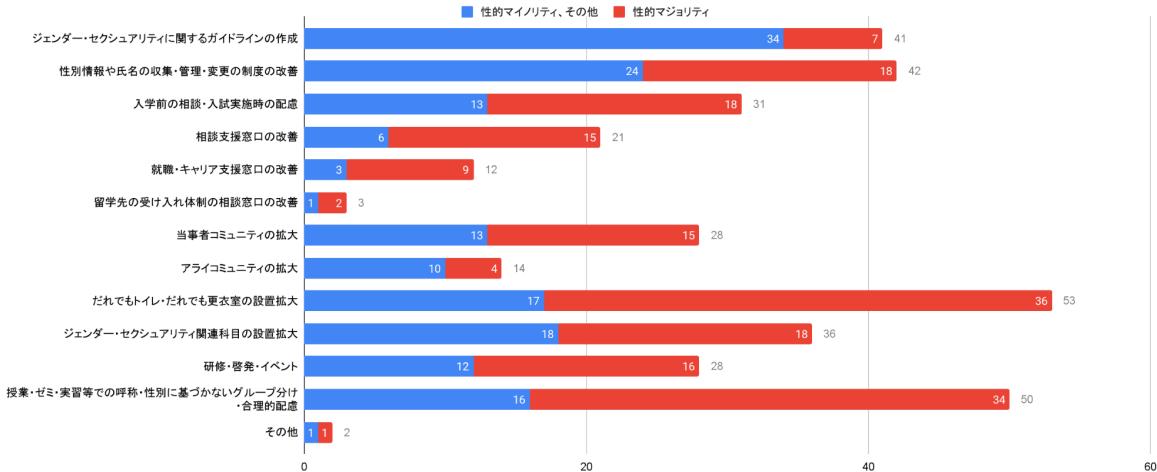


図3-d-3 大学に対して要望したい項目

インタビュー回答者へは、この項目での選択に補足説明を求めた。以下がその回答である。

【ジェンダー・セクシュアリティに関するガイドラインに記載して欲しいこと】

- 異性愛だけじゃないよっていう話
- 初めて会う人とかには異性愛前提で話が進むから、もしかしたらと思って接してもらえると気は楽になるかな。
- ジェンダーとか、セクシュアリティに関して、知らないうちになんかいけないラインに触れてそعدなっていう、恐怖があるんですよ。分からないんで、作ってちょっと知りたいな。
- 最低限の知識を持ってもらって、いるよっていうのが伝われば良い。
- ジェンダーとかセクシヤリティによる成績の差別であったり、研究をするため実験の材料を与えてもらえないとか、不利益を被られないようにして欲しいなっていうのが。学業自体とセクシヤリティとか別に関係ないはずなんですけど。セクシヤリティに理解がないとそういう教員とかもいたりするのかなってどこも感じたりするので。

【性別情報や氏名の収集・管理・変更の制度の改善】

- 「男」「女」の2択ではなく「その他」なども加えた方が、性的少数者の人が反応に困らないような気がします。
- 通称名を変える話の時に、面倒くさいことがあつたらしい。
- 川内でも手続きしてくれるようにして欲しい。

【入学前の相談・入試実施時の配慮】

- AO入試では願書の性別の欄が「男」「女」の2択であったので、その他の性別でも志願しやすいうように他の選択肢を加えた方がいいと思いました。
- 性別とかするときに、そういうのを気にして明記したくない人とかがいるのかなって思って。
- 医科大学が性別によって点数を変えてた事件のようなことが、無いようにして欲しいな。
- 通称名の使用とかそういったところだったり、健康診断とか何か実習の時とかに、男女で分かれられるような、着替えをするような時など何かあったりしたときに、そういうのをあらかじめ入学前とか入試の時とかに相談も出来たりすると嬉しいのかな、という風に思います。

【相談支援窓口の改善】

- ちゃんとした知識を持ったカウンセラーさんが誰で、いついるっていうのが分かると楽。

【当事者コミュニティの拡大】

- 「虹色みとこん」があつたらしい。週1とか月1とかで集まってお茶するくらい。そういう感じ。大学入った時に、サークル活動しているのかなって調べたんですけど、全然していなかつっぽい。
- どっちかっていうと会った方がいいかな。サークルとかの部屋とかサークル室みたいなのを作つて、みんなで一緒に集まって、お茶したりゲームしたりとか、楽しそうだなって思うんですけど。これが一番大事な気がします。
- 周りの人にあまりバレたくないって言う人が入りやすい感じのコミュニティーがあると楽だなあ。

- 川内以外のキャンパスに通う人も(繋がれるような場)
(括弧内報告書作成者補足)
- 当事者中心の方が安心感はあるかなあ。(アライの方は、私いことしてると思ってるんだろうなこの人っていうのがあってちょっと苦手だった時期があって)

【アライコミュニティの拡大】

- アライの輪を広げていっていただいて、LGBTQフレンドリーな大学だよっていう。全体として何かやってくださると嬉しいなってすごい思うんですけど。
- 理解してくれる人が増えれば、「いやそういう人もいるんだよ」って言ってくれる人が周りにいればまた変わるのかなって思うので。

【誰でもトイレ・誰でも更衣室の設置拡大】

- 川内キャンパスのA~C棟には、あまりジェンダーフリーなトイレが無いように感じたからです。
- 体と自認している性が一致しない人って多分、トイレをどうするかを一番困っている。(戸籍上の性別にあったトイレに行ったらトイレ出るときにびっくりされたとか。)
- 性的指向が、男性が好きなのに見た目が男性だから男子トイレに行かなきやいけないけど中では気まずい思いをしている。(銭湯、サウナも同様)
- 自分の身体の性と自認している性が一致していない人や、自分の身体の性と性的指向の対象となる性が同じ人がいて、そういう人でも性別関係なくは入れるトイレとか更衣室とかってあつたら気にせず入れるじゃないですか。
- 星陵は、ロッカーから何からきれいに男女別。車椅子トイレすら一カ所ぐらいしかない。

【ジェンダー・セクシュアリティ関連科目的設置拡大】

- 性的少数者の人が抱える問題を、そうでない人に分かりやすく説明して欲しいです。
- その問題を緩和するために個人が出来ることについても具体的に教えてほしいです。
- こういう人がこれくらいいて、こういうことに困ってる・生きづらさがあるよっていうのを言ってもらえるといいかなあ。医学部だけでもいいんでやってない学年全部やれって思ってます。
- ネットで調べて、この本よさげって書いてあるから見てみようかなという感じで見てみると、当事者向けっていうよりは、周りの人向け感が強くて、なんかまあそれもいいんだけどなんだろうなあみたいな感じでちょっとモヤモヤしてる。外から見た視点も必要かもしれないけれども、内側からなんかないのかなあと思ったりはします。
- どれくらいの割合でいるとかそういう正確なデータとかはやっぱないんで、情報がもっとあればいいなと思う。

【研修・啓発・イベント】

- 教員の先生方に研修とかそういう啓発イベントみたいなのを。実際に差別をしないとか、そういうことに関してだけでも理解をしてもらえたらしいのかなって。
- 学生生活の中で、一橋大の自殺しちゃった人みたいにならないように、不要なアウティングをしないとか、何かそういうような、当事者じゃない人、アライの人たちがどういうふうに、本人を傷つけないようにできるのかな、みたいなところ。

【授業・ゼミ・実習等での呼称・性別に基づかないグループ分け・合理的配慮】

- 授業において「必ず1人女性を含むように3人グループを作る」といった指示があることがたまにあります、性別で分けることに違和感を持つ人がグループにいた場合あまり良く思われないように感じました。

【その他】

- 入学前の説明会・交流会が欲しいって言うよりこういう活動してるよっていうのが入学前に見えると安心かなあ。
- 他の大学だと、相談窓口がありますよとか書いてある。

3-d-c. インタビュー回答者が東北大学に対して伝えたいこと

また、インターに回答して下さった方全員に東北大学に対して伝えたいことを聞いた。主に、性の多様性関連、教育関連、東北大学に所属する者の意識についての意見であった。以下に回答を示す。

- 大学に属する人全員が快適に暮らせるように、多様な性、多様な人間に対して理解のある優しい大学であってほしいと思います。
- 理解のあるまま、東北大学にはいろいろと進めて欲しいなとは思います。
- 医療従事者になるんだったら相当関わる人たちだと思うので(精神科、産婦人科等)、毎年位のペースでちゃんとした人呼んで講義して欲しいなあって思います。

- 東北大の教員だったり学生さんにはなんというか、セクシャルマイノリティがいるんだなっていう理解とか、まあ、差別をしちゃダメなんだなっていう理解をしていただけたら嬉しいなって思います。
- 世の中枠にはまらない人は一杯いるんだよってことですかね。
- ジェンダーの授業を取ったんですけど、男尊女卑が激しいというか、女尊男卑が激しいというか。授業として微妙だなと思ったくらいですね。めちゃくちゃ極端な例を色々あげて、こんなんだから男はもっと女性を丁寧に扱いなさい、みたいな。マイノリティに関しては、授業の1回の30分くらいしか触れてなくて。それも不満だな～と思いました。

4. 考察

本調査は2021年夏から秋にかけて行われたものであるため、本考察においては2022年4月発表のDEI推進宣言に関しては考慮せず、4.提言においてその役割と展望について触れる。なお、東北大学の在籍学生数は15,000人以上であるのに対して本調査におけるアンケートの回収数は152件、インタビュー実施件数は6件である。また、アンケートの拡散の主体は性を考えるサークルAROWであることから得られたデータに偏りが生じている可能性がある。以上のことから、本調査は大学全体の実態を表すものではないことに留意する必要がある。

4-a. 回答者のジェンダー・セクシュアリティに関する考察

【性的マイノリティの存在】

性自認が中性・無性・ノンバイナリーの回答者が7名存在し、レズビアン・ゲイ、バイ・パンセクシュアル、アセクシュアル・アロマンティックの回答者が合わせて33名、それ以外にも無回答やその他と分類される回答も多くあるため、一定数以上の性的マイノリティあるいは現状典型的とされるセクシュアリティに当てはまらない学生が東北大学に在籍しているということが本アンケートで明らかになっている。

本アンケートの主題や、「性を考えるサークルAROW」が中心となって拡散していることから回答者は多くが性の多様性に関心のある方であると推定されるため、これらのグラフの割合が東北大学内の現状をそのまま表しているとは言えない。ただし、拡散力が高かったとは言えない中でこの数の学生がこの回答をてくれたという事実をここで強調したい。

【カミングアウト】

今回のインタビューでは完全にクローゼットにしているという学生はいなかったが、初対面のインタビュアーに話すという一定のハードルを超えた人のみへのインタビュー調査であるため、クローゼットのマイノリティが存在しないということは意味しない。事実、3-b-b. や3-c-b. ではクローゼットであるが故に困難や不快な思いをしたことを他者に相談できなかつたという記述回答があり、クローゼットで大学生活を送っている方、そのために相談等が困難になっている学生も存在していることがわかる。

全面的にオープンにしない理由として語られた内容は、「医者の世界狭いので将来狭まつたらやだなあみたいな。」、「今後研究を、研究職になっていくかなっていう風な将来を描いている中で、研究職って結構人の輪が狭いというか、コミュニティが狭いところもあるので、その中で爪弾きになりたくないな。」などであり、セクシュアリティを知られるとリスクであると感じさせる環境があると言える。また、「少なくとも私の周りには、名前(パンセクシュアル、デミロマ、クエスチョニング)を知らないのが結構多くて、オープンでか言うのに説明するっていう労力がかかるので、それしてでも言いたい人にしか言いたくないっていうか。」といった説明があり、認知度の低さが理由になっている場合があると分かる。

4-b. 性別による区分に伴う困難に関する考察

性別による区分に伴う困難を感じたことのある学生が一定数存在することがわかった。その経験があるのは必ずしも性的マイノリティだけではなく、むしろ本調査の結果からは、女性、または社会から女性として扱われやすい方が、東北大学生活において性別による区分に関してより困難を感じやすいという可能性が示されている。その場面としては部活動・サークル活動が最も多く、記述解答では女性の少なさからくる人間関係での困難や、性暴力被害に関する支援を求めるものも挙げられた。ただし、「授業等での呼称」、「部活動・サークル活動」での性別の区分に困難を感じたとしたシスジェンダー男性の回答者も1名いた。

学内施設については、用意した2つの選択肢のうちトイレを選択した人が3名おり、記述回答では他者の経験に関して言及するものがあった。

性別による区分に関するもののうち、書類の性別欄や通称名使用の制度に関しては、全体の約2割、性的マイノリティ・その他の約3割が改善を求める回答をした。特に「性別欄をなくして欲しい・選択肢を増やしてほしい」という選択肢は、性的マジョリティ・マイノリティ合わせて30名が選択している。性別欄に関する記述回答として、「回答欄に男性/女性以外の「その他」があつても、自分の名前を書いている以上、学校の書類でその他に印をつけることを躊躇してしまうので、はがゆさのあるまま戸籍上の性別を記入した。」という意見もあり、「その他」を選択することの心理的障壁の高さが伝えられている。また、通称名の使用に関して、インタビューの中では実際に授業・サークル内での呼称に迷ったという経験が語られた。また、「3-d-b. 大学に対する要望」でも「性別情報や氏名の収集・管理・変更の制度の改善」は性的マイノリティ・その他の回答者の中で2番目に多く票を集めている。

性別による区分に伴う困難の影響があつたうちでは、自己肯定感の低下が最も多かった。また、授業をとることを諦めた、アウティングをされたなど実際的な被害も出ているといえる。

性別による区分に伴う困難の影響があつたとした回答者の半数以上は、特に対応をしていない。その理由としては、自分の中で処理ができそうであったというものもある一方で、「人に相談できないくらい他人を信じられなくなった」、「これまでの経験から何かしてどうにかなるとは思わなかつた」などの回答もあり、長期的な影響が相談等のしにくさに現れているといえる。

本調査の目的、本報告書をお読みいただく方々への影響を鑑みて記述回答一覧には入れていないが、「5-1. 性的指向や性自認に関する相談、支援について、大学の関連機関が適切に機能していると思いますか」への回答「そう思わない」の根拠として、「性の多様性を尊重することが正しいと思うことが絶対というような感じの圧力が感じられる」という回答が1件存在した。どのような点で圧を感じたのかなど詳しいことは不明であり、本意見に対してとる姿勢は決めかねるが、東北大学生の感覚としてこのようなものがあるという事実をここに示す。

4-c. 性自認・性的指向に関する考察

151名の回答者のうち、性自認や性的指向に関して周囲の人の言動によって不快な思いをしたと回答した学生は合計で35名。その7割以上は性的マイノリティ・その他であり、性的マイノリティ・その他の半数近くが不快な言動を経験していた。その場面としては、性的マイノリティ・その他の回答者では「部活動やサークル活動の中で」が、性的マジョリティの回答者ではSNS上が最も多く選択された。この差は、不快な言動は当事者に対してより投げかけられやすいこと、当事者の方がより鋭敏にそういう言動に気づきやすいことの2つの点で説明ができる。

記述欄での回答では、異性愛主義やジェンダーステレオタイプに基づく言動や、差別用語の使用などの事例が挙げられた。具体的には、「恋人がいたことがない、と言うとしつこくタイプを聞かれ、憐れまれ、いじられた。自分は恋愛ができない人間なので、不愉快だった。」、「性の多様性を考えるのはめんどくさい。〈と言われた。〉」、「部活動で、ある部員について、ひとりが「おかも？」などとからかっていて笑いが生じていました。」、「友人を含めた一部の学生間で、同性愛者を揶揄し冗談を言うのが当たり前になっていた。」などである。言動の主体としては東北大学生が突出して多いことからも、日常的な会話の中で不快な言動があるということが明らかになっている。

全体で見て、不快な言動の場面としてSNS上、部活動やサークル活動について多いのは、「講義や実験など授業中」と、「懇親会、飲み会中」である。加えて、不快な言動を行った主体として6名は大学教員を、3名は大学職員を選択している。具体的には、「LGBTIに関する授業であからさまに理解のない方が講師としてきて、裏で相談に乗ってはいるが男二人でいちゃいちゃしているのを見たら正直気持ち悪いと言っていた。」、「講師の方が「オカマ」という言葉を使っていました。」という回答であり、教育的立場の人物からの差別的かつ攻撃的な発言があり、授業等の安全性が確保されていないことが分かる。

その他に、家族からの不快な言動として、「ある出来事について母に相談していた際、やはり自分はアセクシャルだと思うと言った所、そんな人はいるはずがない、何かの病気なら診断してもらって治した方が良い、というような趣旨の発言をされた。素敵な恋愛をして幸せになって欲しいという気持ちや、孫の顔が見られないかもしれないという失望感は理解出来るため、恋愛が出来ない自分が情けなくなった。」という記述回答もあり、大学以外の場で自己肯定感を奪われる経験も語られた。

不快な言動に対しては、ほとんどの回答者が「特に何もしなかった」を選択している。その理由としては、自分の中で処理できそうだったため、価値観を押し付けたくなかったためというような回答もある一方で、「相談した所で変わらないとも思った」といった諦めと取れるものや、「周囲から浮いてしまうから」、「当たり前の話題の一つとなっていて、その問題点に踏み込むのは過激な活動家だという雰囲気があるから。」など周囲からのネガティブな反応を避けるためといった消極的な理由のものが多く見られ、支援を求めることが困難な現状があることが分かった。また、「講師の方の発言だったので指摘する勇気がなかった。」とあるように、指導的立場からの不快な言動への対処の難しさも語られている。

4-d. 困難や不快な言動を経験した際に望まれた支援と現状

4-d-a. 性別による区分に伴う困難に際して望まれた支援と現状

3-b-a. 質問番号3-5. の大学の発行する書類に関する調査結果、3-b-b.,3-c-b. 、質問番号3-11.,4-9. の望まれた支援に関する自由記述回答と、大学で既に存在している支援を以下に整理する。大学で既に存在している支援に関しては、表4-d-1,2にまとめた。ただし、ここでの大学の支援は、本プロジェクトメンバーによるネット検索等を元に判断している。

1. 大学の発行する書類に関して求められた改善と現状

3-b-a. で記述してあるように、「記載する性別を変更して欲しい」を5名、「性別欄をなくして欲しい」を30名、「通称名の使用を認めて欲しい」を8名が選択していた。これらに対する2022年5月時点での支援は以下の通りである。

「記載する性別を変更して欲しい」に関しては、東北大学ホームページ上の「学生生活案内2022(PDF版)」の「窓口、掲示板案内・諸証明・届・願」、「3 諸証明・届・願」にある「2 願出・届出その他」の「身上変更届」という項目には「本人・保証人住所・氏名・連絡先等変更 本人や保護者の連絡先等は学務情報システムから届出可能。」と記載されている。しかし、これに関して学生支援課支援企画係に確認したところ、身上変更届での性別変更は行っておらず、各学部の教務科の対応の統一性も不明であるとの回答を得た。

「性別欄をなくしてほしい」に関しては、東北大学ホームページの「在学生の方へ」の項目を参照したが、具体的な記載を発見することはできなかった。

「通称名の使用を認めて欲しい」に関しては、「学生便覧 東北大学大学院歯学研究科 東北大学歯学部」の「II.学生生活 歯学部キャンパスにおける学生心得 5旧姓または通称名の使用について」に記載があった。また、後述の追加インタビューの際に通称名の使用が可能であることを確認することができたため、東北大学に問い合わせたところ、東北大学教育・学生支援部教務課で、通称名使用の届出が可能であることがわかった。通称名は、東北大学で扱う書類全般で使用される。ただし、所属学部での手続きが必要な上通称名使用可能であるとの認知は十分でないという回答が得られた。その他に参考として、他大学の通称名に関する事例についての調査を行った。その結果、東京外国语大学、明治大学、駒澤大学、群馬大学は可能であることがホームページ上で確認された。九州大学は可能であるものの、各種証明は自己責任との記載があった。これらの大学は、インターネットで検索した結果、上位に表示されたところである。

表4-d-1 大学の発行する書類に関して求められる支援と現状

	十分に機能している	機能しているが知られていない	部分的に機能している	機能していない	不明
記載する性別を変更して欲しい					○
性別欄をなくしてほしい					○
通称名の使用を認めて欲しい		○			

2. 性別による区分に伴う困難に際して望まれた支援

3-b-b. より、性別による区分に伴う困難に際して望まれた支援の自由記述は以下の5つである。「痴漢などの被害を受けた際にどう対応すればいいかのマニュアル化(特に高校生など向けの)」、「通称名の使用ができる。」、「性別記入欄は可能な限り無くしてほしい。」、「性的少数者の存在を認知、理解してくれる人の存在」、「大学内での性別違和や性的指向を理由とした差別を禁止することを公に取り決めしてほしい。」。

このうち、「痴漢被害等を受けた際のマニュアル」に関しては、外部の団体によるサイトを見つけることができたが、信憑性の低いものもあった。大学として発行しているマニュアルなどは見つけることができなかった。

「通称名の使用」、「性別記入欄の可能な限りの削減」に関しては、上述の通りである。「性的少数者の存在を認知、理解する人」に関しては、東北大学に「東北大学 学生相談・特別支援センター」という機関が存在しているが、性的マイナリティに関しては言及がなかった。

「大学内での性別違和や性的指向を理由とした差別を禁止することの公での取り決め」に関して、2021年3月に示された「国立大学法人東北大学における人権擁護及び人権侵害防止に関する基本方針」では、“本基本方針において、「人権侵害」とは、社会的身分、門地、人種、信条、障がい、性別、性的指向及び性自認その他の理由による不当な差別その他の人権を侵害する行為をいう。”とした上で、“本学構成員は、人権侵害を行い、又は他者が行う人権侵害を容認してはならない。”との記述がある。これは望まれた支援の公での取り決めにあたるといえるが、その認知度が低かったためにこのような回答があったと考えられる。

表4-d-2 性別による区分に伴う困難に際して望まれた支援と現状

	十分に機能している	機能しているが知られていない	部分的に機能している	機能していない	不明
痴漢被害等を受けた際のマニュアル				○	
通称名の使用		○			
性別記入欄の可能な限りの削減					○
性的少数者の存在を認知、理解する人			○		
大学内での性別違和や性的指向を理由とした差別を禁止することの公での取り決め		○			

4-d-b. 性自認・性的指向に関する不快な言動に際して望まれた支援と現状

性自認・性的指向に関する不快な言動に際して望まれた支援に関する自由記述回答は、3-c-b. にある通り、【話を聞いてもらえる場】、【居場所】、【知識の浸透】、【その他】に分類される11件の回答であった。これらと大学で既に存在している支援を以下に整理する。大学で既に存在している支援に関しては、表4-d-3にまとめた。ただし、ここでの大学の支援は、本プロジェクトメンバーによるネット検索等を元に判断している。

【話を聞いてもらえる場・居場所】の「信頼できるカウンセラーや外部の無料もしくは安い相談機関の紹介」、「ただ話を聞いて受け止めて欲しかった」に関しては、上述の「東北大学 学生相談・特別支援センター」は存在したが、外部の相談機関に関するものや話を聞く場自体は発見することができなかった。また上記センターのホームページでは相談内容に関する例は詳細には載っていないこともあり、性自認・性的指向に関する相談ができるのか、理解のあるカウンセラーがいるのかはホームページからは読み取ることができなかった。

【居場所】に分類された「本名を明かさない対面のコミュニティ」や「イベント」、「性的少数者が肯定されるような居場所」の実現・実施に関しては、性を考えるサークルAROWの活動の目指すところと一致する。また、特に「イベント」に関しては、ジェンダー平等や性の多様性などに関するイベントを「東北大学男女共同参画推進センター」でも行っている。

「教授や学生以外のTAのような第三者の介入」に関しては、現在の講義に必ずTAがいるわけではないという現状と、TAと教授の関係性がどのようなものか調べることができないことから、TAの存在や言動が抑止力となるかは不明である。

「マイノリティの存在の認知」に関しては、「東北大学男女共同参画推進センター」で、「多様な性・アライ研修」というものが行われていたことを確認した。しかし、知識不足・偏見から来ると推測される性自認・性的指向に関する不快な言動が記述回答に見られること、「LGBTの人、近くにいる？いないよね」という発言があったという自由記述回答があることなどからも分かるように、存在の認知が進んでいるとは言えない。

以上のような支援を求める声がある一方で、支援は難しい・支援ではどうにもならないと諦めるような声もある。

表4-d-3 性自認・性的指向に関する不快な言動に際して望まれる支援と現状

	十分に機能している	機能しているが知られていない	部分的に機能している	機能していない	不明
信頼できるカウンセラーや外部の無料もしくは安い相談機関の紹介			○		
ただ話を聞いて受け止めて欲しかった			○		
本名を明かさない対面のコミュニティ		○			
イベント	○				
教授や学生以外のTAのような第三者の介入					○
マイノリティの存在の認知	○				

4-e. 東北大学への評価・要望に関する考察

【大学の関連機関への評価】

大学の関連機関への評価に関しては、全体として肯定的な評価と否定的な評価の数が近く、性的マジョリティがより多く「わからない」を選択していること以外、傾向の違いは見られなかつた。「わからない」という回答の多さの背景には、大学の関連機関を具体的に示さず、かなり大まかな聞き方をしたことがあると考えられる。

本アンケートでは否定的な回答をした回答者にその理由の記述を求めたが、最も多いのは大学の関連機関を知らない、その知名度が低いということである。(特にセクシュアリティに関する)相談先の情報を知らない、大学から学生に向けた情報の発信が少ないなどの回答は半数以上を占めた。その他には、「呼称に関しても「さん」や「くん」と男女によって分かれている感じるから。」、「性別を答えさせる欄が多くあるから。」といった制度・施設面での配慮のなさを根拠にしたものや、「男女共同参画推進センターはあるけれど、大学の教員職員の男女共同参画であり、学生のセクシュアリティ関連は不十分だと思います。」など、自身の視点から相談機関の質 자체に問題があるとした回答も存在した。

【大学に対する要望】

回答者が大学に対して要望したいと思う項目を選択してもらったところ、性的マイノリティ・その他の回答者では「ジェンダー・セクシュアリティに関するガイドラインの作成」が最も多く、次いで「性別情報や氏名の収集・管理・変更の制度の改善」が続いた。一方、性的マジョリティの回答者ではガイドラインの作成を選択した人は少なく、「だれでもトイレ・だれでも更衣室の設置拡大」と「授業・ゼミ・実習等での呼称・性別等に基づかないグループ分け、合理的配慮」の選択が多かった。「3-b-a. 性別による区分に伴う困難の現状」の「図3-b-6. 性自認に対応したものを利用できずに困難を感じたことのある学内施設」においてトイレを選択した回答者は3名であったという点と、大学に対する要望としての「だれでもトイレ・だれでも更衣室の設置拡大」の選択の多さの関係については、以下のような説明が考えられる。まずインタビューの中で、性自認の面ではなく性的指向の面で、学内施設の使いづらさがあるという回答があつたことから、同様の体験をして

いる回答者が他にもいた場合が考えられる。また、特に性的マジョリティの選択が多い事から、「学内施設の選択肢の増加」という取り組みがある種の象徴的な性的マイノリティへの支援として認識されている可能性がある。同様に、「3-b-a.性別による区分に伴う困難の現状」の「図3-b-3.セクシュアリティと性別による区分に伴う困難を感じた場面」において、クラス分けを選択している回答者はいないという点と、大学に対する要望としての「授業・ゼミ・実習等での呼称・性別等に基づかないグループ分け、合理的配慮」の選択の多さの関係については、以下のような説明が考えられる。まず用語として、「困難」というほどのものではないが可能であれば改善を望む、という回答者がいた場合が考えられる。また、大学に対する要望の選択肢は困難を感じた場面のものより具体的、かつクラス分けと呼称双方を含む広範囲の記述であったことも要因となりうる。特に性的マジョリティの回答者の選択が多い点から、回答者自身の困難な経験を元にした選択ではなく、第三者として問題意識を持って要望をしている回答者が一定数いると推測される。

以上で言及された以外の項目では、全体として「ジェンダー・セクシュアリティ関連科目の設置拡大」、「入学前の相談・入試実施時の配慮」、「当事者コミュニティの拡大」、「研修・啓発・イベント」が28票から36票を獲得していた。当事者コミュニティに関するインタビューでの補足説明には、「周りの人にあんまりバレたくないって言う人が入りやすい感じのコミュニティーがあると楽だなあ。」というものがあり、カミングアウトがリスクであると感じられる環境の中で、安全なコミュニティーを求めていると伺える。

「ジェンダー・セクシュアリティに関するガイドラインの作成」に関しては、インタビューでの補足説明でガイドラインに求められた要素は、「ジェンダーとか、セクシュアリティに関して、知らないうちになんかいけないラインに触れてそうだなっていう、恐怖があるんですよ。分からいいんで、作ってちょっと知りたいな。」という回答にあるようにアライとして気をつけるべき具体的なライン、また、性的マイノリティの存在の認知、差別や不利益を被ることがないことの保証などである。

「誰でもトイレ・誰でも更衣室の設置拡大」に関するインタビューでの補足説明は、現状での施設の不足や、性自認のみならず性的指向の観点からの現状の施設の使いがたさに関するものであった。

本質問では、留学先の受け入れ体制、就活・キャリア支援窓口、相談支援窓口の改善の3項目は、得票数が少なかった。これは、そもそもこれらを使用したことのある人が少なかったためと考えられる。

また、「アライコミュニティの拡大」の得票数が「当事者コミュニティの拡大」の半分であり、特に性的マジョリティの回答者でこの差が大きかったことに関しては、性的マジョリティの回答者内の「アライ」という単語の認知度が低かった、性的マジョリティの回答者の多くはアライコミュニティの重要性を認識していないなどの理由が考えられる。

大学に対する要望を問うこの設問では、その他として、工学部の女子学生優遇を批判する意見が書き込まれた。サイエンスエンジェルの存在やAO入試II期の女子入学者の多さを指摘するものであるが、これはむしろ現時点での工学部女子学生の晒される視線、置かれる立場の厳しさと積極的格差是正の困難さを表していると言える。実際に、AO入試II期において女子受験者の優遇が行われたという事実は確認されていない。

【インタビュー回答者が東北大に伝えたいこと】

インタビューでの「東北大に伝えたいこと」という項目においては、ジェンダー関連科目の質や量、授業内でのマイノリティへの言及の少なさへの不満、認知度向上を求めるものの他に、「理解のあるまま、東北大にはいろいろと進めて欲しいなとは思います。」という前向きなコメントもあった。

4-f. 考察のまとめ

本調査によって、現状典型的とされているセクシュアリティに当てはまらない学生が東北大学に在籍しているということが明確になった。また、性別による区分に伴う困難としては、性的マイノリティとしての困難だけでなく、少数派である女子学生としての困難の存在も見えてきた。

性的指向・性自認に関する不快な言動は、性的マイノリティ・その他の回答者の半数近くが経験しており、東北大学生や東北大学教職員によるものが大半であった。教職員による差別的発言や部活動内での定番化した差別的行動があるという記述もあり、学生生活の安全性が確保されていないといえる。

大学の関連機関の評価としては、その存在や活動内容を知らないということを根拠に否定的な意見をもつ回答者が目立ったため、今後の関連機関の知名度向上が有効であると言える。

5. 提言

今回の調査に基づき、「多様な性を取り巻く過ごしやすい環境作り」、「相談しやすい環境作り」、「施設・制度の充実」の3つの項目に関して次のような提案をする。

1. 多様な性の学生が過ごしやすい環境作り
 - a. ジェンダー・セクシュアリティに関するガイドラインの作成
 - b. ガイドライン・方針の周知による認知度向上
 - c. 「東北大学ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン(DEI)推進宣言」の周知
 - d. 学生・教職員の意識改革・啓発活動
2. 相談しやすい環境作り
 - a. 信頼出来るカウンセラーやコミュニティ等様々な形で話を聞いてもらえる人や場所
3. 施設・制度の充実
 - a. だれでもトイレ・だれでも更衣室の設置拡大
 - b. 書類の性別欄の削除・選択肢の増加 / 通称名の利用手続きの簡略化・手続き方法の明示

1-a.「ジェンダー・セクシュアリティに関するガイドラインの作成」に関しては、本調査により学生が要望していたと分かった「性的マイノリティの存在の認知」、「アライとして気をつけるべき具体的なライン」、「差別や不利益を被ることがないことの保証」や、以下で言及する項目について具体的に記載したガイドラインの制定を求める。実際に、2022年4月5日に公開されたダイバーシティ推進ポリシーに「多様な性に関する対応ガイドライン(仮称)」の制定(2022年度中)が盛り込まれているが、教員を対象とした「『多様な性をとりまく現状に関するアンケート』(2021年度実施)から得られたニーズ等を踏まえ、必要な対応を検討」とあるため、学生のニーズを取り入れるために学生を対象に行った本調査から得られるデータも踏まえて制定していただきたいと考える。

1-b.「ガイドライン・方針の周知による認知度向上」に関しては、学生・教職員への「国立大学法人東北大学における人権擁護及び人権侵害防止に関する基本方針」の周知を求める。この基本方針では、人権侵害の定義として「性的指向及び性自認」について言及されており、“本学構成員は、人権侵害を行い、又は他者が行う人権侵害を容認してはならない。”という記載があるが、本調査によりこのことについて周知されていないことが読み取れる。また、“職務上管理監督する立場にある者は、健全で快適なキャンパス環境を確保するため、人権侵害の防止・排除に努めるとともに、人権侵害に関する問題が生じた場合には、適切かつ迅速に対処しなければならない。”という記載があるのにも関わらず、本調査では大学の教職員が性自認や性的指向に関して不適切な言動を行なったという回答があり、形だけの方針になってしまっていると言える。

1-c.『「東北大学ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン(DEI)推進宣言」の周知』に関しては、1-b.と同様に、DEI宣言に関しても対外的な発表に留まらず、東北大学での生活に困難を抱えている全ての学生、思いがけず他者を苦しめてしまっている全ての教職員や学生に届くような効果的な告知を求める。

1-d.「学生・教職員の意識改革・啓発活動」に関しては、大学入学時に全学生に多様な性・SOGIについて周知すること、ジェンダー・セクシュアリティ関連科目の設置を求める。本調査では、「無知による不適切な発言・差別発言」や「固定的なジェンダー観による不快な発言」を受けたという回答があり、多様な性・SOGIについての知識や差別用語・アウティングなどについて全学生・教職員に周知する機会を設けるべきであると考える。全学生への周知徹底の第一歩として、教職員が多様な性について理解のある大学を目指すべきだと考える。また、ジェンダー・セクシュアリティ関連科目の設置に関しては、医学部・教育学部など特に必要とする学部は必修とする等の対応を求める。

2-a.「信頼出来るカウンセラーやコミュニティ等様々な形で話を聞いてもらえる人や場所」に関しては、性的マイノリティが交流する機会の確保、相談支援窓口の改善を行い性の多様性に関して十分な知識を持ったカウンセラーに相談できる日時の周知を求める。相談窓口の改善に関しては、本調査により、学内カウンセラーに対し不信感を抱いている学生の存在が分かったため提案したが、ダイバーシティ推進ポリシーの“「LGBTQ+相談窓口」の明確化”という記載から、実現可能性の高さが窺える。

3-a.「だれでもトイレ・だれでも更衣室の設置拡大」、3-b.「書類の性別欄の削除・選択肢の増加 / 通称名の利用手続きの簡略化・手続き方法の明示」に関しては、記載の通りである。3-a.は、大学に対する要望の中で最も回答が多かったため、早期の解決を求める。3-b.は、大学に対する要望の中でも回答が多かったこと、本調査により手続きの不便さを訴える学生がいたことから早期の解決が必要であると考える。

これらの提案のうちには実現が困難なものも含まれるが、より多くの学生にとって過ごしやすい大学に変えていくために必要な提案であると考える。

6. 総括

本調査では、性別による区分に伴う困難、性自認・性的指向に関する不快な言動の現状を確かめ、学生が東北大学に対して求めていることを調べた。

全体を通して、東北大学内にさまざまな形で性の多様性に関する困難やハラスメント行為があることが明確であった。それに対し、支援や制度が存在していない場合と、それらが存在していてもその認知度が低くその機能を効果的に果たすことができていない場合があり、同時進行的な取り組みが必要とされている。

また、周囲の人の理解・知識不足が原因となっている事例も多く、より一層の教育・啓発活動が有効であるということが分かった。

今後は本調査で見えた実態や学生の声を大学側に届けるとともに、以上で上げてきたような具体的な改善案の実現を目指す。

また、今回の調査は学生主体だったこともあり回答数が限られ、拡散方法の点から回答者の問題意識等に一定の傾向があったと推測されるため、明らかにされなかった困難や不快な経験、意見があると考えられる。今後のより大規模な調査が期待される。

謝辞

本アンケート・インタビューに貴重なご回答くださった皆様、拡散にご協力をいただいた皆様に深く御礼を申し上げます。

東北大学経済学研究科教授 西出優子先生並びに東北大学高度教養教育・学生支援機構教授 末松和子先生には、アンケート調査作成にあたり終始多大なるご指導・ご鞭撻をいただきました。ここに深謝の意を表します。また拡散にあたって多大なご助力をいただいた東北大学男女共同参画推進センター 大隅典子先生に感謝申し上げます。

東北大学文学研究科准教授 小川和孝先生、並びに東北学院大学経済学部共生社会経済学科准教授 小宮友根先生、東北大学ジェンダー・セクシュアリティ会の有志の先生方(東北大学経済学研究科教授 秋田次郎先生、東北大学医学系研究科助教 奥山祐子先生、東北大学高度教養教育・学生支援機構講師 小島奈々恵先生、東北大学医学系研究科教授 吉沢豊子先生、東北大学高度教養教育・学生支援機構准教授 米澤由香子先生(五十音順))にも、本調査・報告書作成にあたり適切なご助言を賜りましたことを感謝申し上げます。

参考文献

- [1] 東北大学男女共同参画推進センター(2022)「東北大学ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン(DEI)推進宣言」.
<http://tumug.tohoku.ac.jp/dei/>, (2022.5.5アクセス)
- [2] 東北大学男女共同参画推進センター(2021)「【報告】『多様な性・アライ研修』東北大学経済学部教育FD経済学部基本専門科目『経営組織』第18回ダイバーシティ・マネジメント公開授業(2021/6/14開催)」.
<http://tumug.tohoku.ac.jp/blog/2021/07/28/20743/>, (2022.5.5アクセス)
- [3] 東北大学本部事務機構「国立大学法人東北大学における人権擁護及び人権侵害防止に関する基本方針」.
<https://c.bureau.tohoku.ac.jp/homucomp/jinken/>, (2022.5.13 アクセス)
- [4] 「国立大学法人東北大学における障害を理由とする差別の解消の推進に関する基本的考え方 及び留意事項」.
<http://www.bureau.tohoku.ac.jp/jinji/open/syogai/kangaekata.pdf>, (2022.05.27 アクセス)
- [5] 東北大学 学生相談・特別支援センター.
<http://www.ccds.ihe.tohoku.ac.jp>, (2022.5.13 アクセス)
- [6] 東北大学(2022)「学生生活案内(冊子)」.
<https://www.tohoku.ac.jp/japanese/studentinfo/studentlife/01/studentlife0101/>, (2022.5.5アクセス)
- [7] 東北大学(2016)「平成28年度(2016年度)学生便覧 東北大学大学院歯学研究科 東北大学歯学部」.
<http://www.dent.tohoku.ac.jp/student/syllabus/files/h28handbook.pdf>, (2022.5.5アクセス)
- [8] 東京外国語大学「本学における学生の通称名使用について」.
<http://www.tufs.ac.jp/student/consultation/tsushoumei.html>, (2022.5.5アクセス)
- [9] 明治大学「本学における学生の通称名使用について」.
<https://www.meiji.ac.jp/koho/diversity-and-inclusion/6t5h7p00001m77je.html>, (2022.5.5アクセス)
- [10] 駒澤大学「通称名刺用」.
<https://www.komazawa-u.ac.jp/campuslife/studies/student-register/name.html>, (2022.5.5アクセス)
- [11] 群馬大学「群馬大学学生の通称名等取扱要項」.
https://www.gunma-u.ac.jp/kisoku/pdf/chap_05/sec_0510/051135.pdf, (2022.5.5アクセス)
- [12] 九州大学「学生の性別違和を理由とする通称名使用」.
<https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/education/procedure/gender-dysphoria/>, (2022.5.5アクセス)
- [13] 東北大学「東北大学 学生相談・特別支援センター」.
<http://www.ccds.ihe.tohoku.ac.jp/>, (2022.5.5アクセス)

付録

本調査で使用したアンケートを別資料で添付する。

【東北大学生活環境実態調査】

「多様な性(性自認・性的指向)をとりまく現状に関する調査結果報告」

発行:2022年6月19日

編集:東北大学 性を考えるサークルAROW 内部組織 AROW Project

この冊子の全部または一部を許可なく転載することはできません。

ご質問・ご意見などありましたら、下記のメールアドレスまでお願ひいたします。

AROW Project: arow.project@gmail.com

東北大学AROW: arow.tohoku.uni@gmail.com

【ホームページ】

東北大学AROW:

<https://arowtohokuuni.wixsite.com/arow>
